

ピアノと朗読で奏でる源氏物語 卷の三

源氏・流転

「賢木」から「明石」まで
源氏二十三歳から二十八歳の秋

千年以上前に書かれた『源氏物語』。
光源氏を主人公に据えながら、
さまざまな女君たちの思いが見事に描かれた物語です。
シリーズ三回目の今回は、
大きく物語が動いていく「賢木」から「明石」までの帖を、
光源氏と女君とのふれあいの場面を中心とした原文の朗読と、
『源氏物語』を現代の音、曲として表現している
遠藤征志の華麗なピアノ演奏とのコラボレーションで
お届けしてまいります。

ピアノ 遠藤征志

朗読 鈴木千秋

2020. 10.24. (土)

13:00 開演 (開場は30分前から)

入場料 4,000 円 (全席自由)

MUSICASA (ムジカーザ)

渋谷区西原 3-33-1 TEL 03-5454-0054

小田急線・東京メトロ千代田線
[代々木上原駅] 東口より徒歩2分

☆ お問い合わせ ☆

090-1618-9311 (鈴木)
VZD07320@nifty.ne.jp



ピアノと朗読で奏でる源氏物語

源氏・流転

源氏二十三歳から二十八歳の秋

巻の一「源氏・憧憬」、巻の二「源氏・熱情」の公演を経て、今回は、巻の三「源氏・流転」と題して、「賢木」「須磨」「明石」の帖をおおくりします。「賢木」では、源氏との仲に絶望した六条御息所が、娘の斎宮とともに伊勢に下向します。

源氏と御息所との最後の別れを描く野宮の場面は美しく切なさを誘います。

さらに源氏の父・桐壺院が亡くなり、悲しみの心を抱えた源氏は、藤壺に迫りますが、源氏の執着が、東宮を含めた自分たちの破滅につながりかねないと危機感を覚えた藤壺は、

桐壺院の一周忌に出家してしまいます。右大臣方の権勢が強まるなか、源氏は、逆境に抗うように朧月夜との逢瀬を続け、右大臣に現場をおさえられてしまい、いよいよ弘徽殿大后は、これを口実に源氏の追放を考え始めます。

「須磨」では、源氏は、正式な罪に問われる前に自ら須磨へと退去していきます。

都を思い、閑居の身を嘆く源氏を取りこめて、わびしい須磨の秋・冬が過ぎ、翌三月、海辺で開運の禊を始めた源氏たちを、突如激しい暴風雨が襲います。

「明石」では、暴風雨と落雷に、源氏は生命の危険すら感じますが、亡き桐壺院の霊が須磨を離れるよう諭し、住吉の神のお告げを聞いた明石の入道に迎えられて明石へと移り、そして入道の望みどおり、入道の娘・明石の君と結ばれます。

都では天変地異が続き、右大臣が亡くなり、朱雀帝も弘徽殿大后も病に苦しみ、讓位の意向を固めた帝は、新帝の後見として源氏を召還、源氏は権大納言に昇進するのです。

*

「源氏物語 54 帖の響～文字の源氏を音の源氏へ」と題して、2018年5月に渋谷セルリアンタワーでピアノリサイタルを催した遠藤征志。光源氏を取り巻くさまざまな女君たちが、流れのなかで翻弄されていくさまを見事に想起させて、聴く人を『源氏物語』の世界へと誘ってゆきます。

今回は、まだCDに発表されていない曲も初めて演奏されます。

奏でられるピアノと朗読とのコラボレーションをお楽しみください。



遠藤征志

Seiji Endo

作曲家 ピアニスト

1978年4月新潟市生まれ。4歳よりクラシックピアノをはじめ。22歳よりJAZZPIANOに傾倒する。玉川大学教育学科卒業と同時にプロ活動開始。2005年、TBSドラマ「恋の時間」で遠藤征志本人役にて出演。2006年、NY Harlemへ武者修行。2010年8月、世界24カ国から集まって開催される国際コルチャック会議のオープニングで世界の子供達の「愛と平和」のために書き下ろした音楽を演奏。2012年、NY Cherry Blossom Festival 100周年を記念したコンサートに招かれ、書き下ろした「桜暁想曲」を演奏。2014年8月、インドネシア・バリのウブドで行われた UBUD VILLAGE JAZZ FESTIVALに招聘されソロピアノで出演。2015年10月、東北支援「伝えていこうプロジェクト」を立ち上げシングル「伝えていこう」をリリース。2017年、東久邇宮記念賞、ならびに文化褒章を受賞。2018年5月渋谷セルリアンタワー能楽堂にて「源氏物語54帖の響Vol.1 文字の源氏を音の源氏へ」3公演開催。アレンジャー・サウンドプロデューサーとしての作品多数。繊細で豊かな音色、精神性を感じさせる主張のある演奏、才能溢れるオリジナル作品で聴くものを魅了してやまないSEIJI ENDO。ジャンルを超越したPianist・作曲家・編曲家として活躍が期待されている。



鈴木千秋

Chiaki Suzuki

朗読家

東京都出身。舞台朗読の第一人者・幸田弘子氏に師事。2000年、「朗読グループ・幸風」を立ち上げ、以後10年間毎年公演を主宰。樋口一葉、夏目漱石、宮沢賢治、太宰治、宮部みゆき、藤沢周平などの朗読のほか、「源氏物語」や「おくのほそ道」など古典の朗読も行っている。現在、フェリス学院大学、早稲田大学オープンカレッジ、神楽坂朗読サロンなどで朗読講師を務め、各朗読会の企画・指導も行っている。幸風朗読サロン、聲の部屋などの朗読会開催のほか、太宰治文学サロン、シドニー大学、ハノイ大学、函館・宝来亭などで朗読。07年、JAL国際線の機内オーディオ「千年紀によせて～源氏物語が誘う雅な音世界～」、08年、軽井沢大賀ホールでの幸田弘子氏の舞台「源氏物語～葵～」で現代文のナレーションを担当。14～18年「一葉忌朗読会」、15年「幸田弘子が読む太宰治」で幸田弘子の会に参加。16年、漱石没後100年記念「漱石を聲で楽しむ」、17年、漱石生誕150年記念「I remember you あなたを忘れない」、18年8月「ピアノと朗読で奏でる源氏物語 巻の一」を開催。12月と19年1月「印刷博物館×活版印刷三日月堂ナイトミュージアムツアー」で、ほしおきなえ作「活版印刷三日月堂」の番外編を朗読。19年9月「ピアノと朗読で奏でる源氏物語 巻の二」を開催。